

2018年6月18日
株式会社安井建築設計事務所
トランスコスモス株式会社
応用技術株式会社

**ビルオーナー・ビル管理会社向けに
ICTによる施設マネジメント・ワンストップサービスの提供を開始
安井建築設計事務所・トランスコスモス・応用技術の3社協業により実現**

株式会社安井建築設計事務所(本社:大阪府中央区、代表取締役社長:佐野吉彦、以下、安井建築設計事務所)と、トランスコスモス株式会社(本社:東京都渋谷区、代表取締役社長兼COO:奥田昌孝、以下、トランスコスモス)と、応用技術株式会社(本社:大阪府北区、代表取締役社長:船橋俊郎、以下、応用技術)は、ビルオーナー・ビル運用会社などに向けたICTによる施設マネジメント・ワンストップサービスを本日より提供開始します。

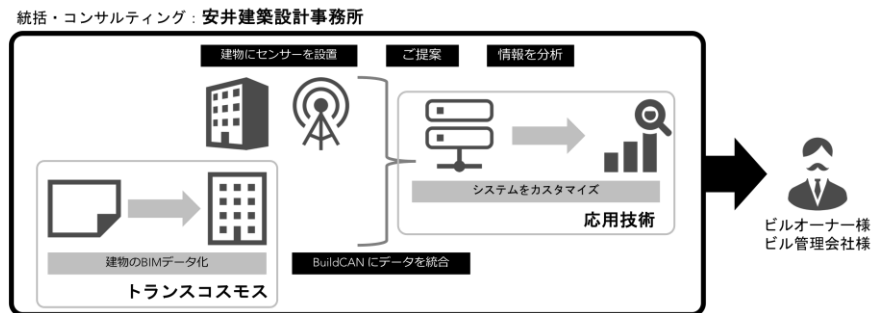
今春、安井建築設計事務所は、医療施設やオフィスで施設マネジメントサービスを提供した実績を踏まえ、IoT^{※1}環境センサーと建物3次元モデルを連携させた国内初の建築マネジメントシステム「BuildCAN(ビルキャン)」を構築しました。「BuildCAN」は、安井建築設計事務所が大学と共同開発した既存の建築情報マネジメントシステムをベースに空間の快適性やエネルギー低減のための環境管理機能を加えたものです。管理対象は清掃・修繕・改修・保守点検等各履歴に加え、IoT環境センサーによる照度・温度・湿度・CO₂などの監視と分析、仕上材料や設備機器情報、図面や連絡網などに及び、これらをクラウド上でバーチャル建築モデルと有機的にリンクさせることで建物の現状や経年変化をとらえていくものです。

一般的に施設マネジメントの要件は多岐にわたり、クライアントのニーズも個々に異なりますが、「BuildCAN」は的確に応えることができます。安井建築設計事務所がクライアントの要件を整理して全体をマネジメントし、応用技術は、よりきめ細かく対応するためのシステムカスタマイズサービスを提供、トランスコスモスが施設モデルの2次元から3次元への初期データ移行やデータの維持・更新を提供します。さらに、データ分析結果から今後の施設投資に関するコンサルティングサービス等を安井建築設計事務所が提供します。3社が協業してサービスを提供することにより、多様なニーズに中長期に渡りワンストップで応える施設マネジメントサービスが実現できます。

既存施設においても「BuildCAN」の基礎データとなる建物情報の準備は、3次元モデルや2次元データを活用できるため、保有施設ごと柔軟に対応することができます。たとえば BIM(Building Information Modeling : 建物を3次元データ化したモデル)、PIM(Panorama Information Modeling : パノラマ写真を活用した簡易なモデル^{※2})はもとより、一般的な2次元データ(CAD)や紙図面等からもデータ・モデル化して活用できます。また、クラウドだけでなくオンプレミスニーズにも随時対応していく予定です。

3社は、今回のサービスにLCC^{※3}データ等のAI分析システムを融合させることで、バーチャル上で建物の将来予測を可能にする「建築のデジタルツイン・サービス」を開発していく予定で、今回はその第一ステップと捉えています。今後も建築投資の適正化等のコンサルティング技術について、アライアンスパートナーとして発注者の多様なニーズに応えていきます。

【サービス提供イメージ】



今回のリリースに伴い、詳細を Web セミナーでご紹介いたします。ぜひご覧ください。

【Web セミナー】

日時:6月27日水曜日 17時開始

タイトル:業界初！ICTによる施設マネジメント・ワンストップサービスを徹底解説

ICTを活用した次世代の施設マネジメント手法のノウハウ・ドゥハウ

URL: <https://tobim.net/event/webinar/index20180627.html>

※1:IoT / Internet of Things モノのインターネット

※2:「パノラマ memo」 360° パノラマ写真を活用した施設(現場)情報共有システム。株式会社安井ファシリティーズが開発・販売 (<http://www.yasui-f.com/panomemo/>)

※3:LCC / Life Cycle Cost 企画・設計・建設から解体・廃棄するまで、建築物の全生涯に要する費用。光熱水費、修繕・改修費など、ランニングコストや維持管理費が大きなウエートを占める

◆株式会社安井建築設計事務所について

安井建築設計事務所は1924年の創業から90余年の歴史を踏まえ、着実な建築創造活動を通して顧客や社会の要求を的確に実現し、多様なサービスを展開しています。代表設計実績には「大阪国際空港ターミナル」や「サントリーホール」、コンストラクションマネジメントでは「市立吹田サッカースタジアム」など。計画の早い段階から絞り込んだ設計をまとめる「フロントローディング」を重視し、多様化する環境問題や刻々と変化する設計条件にも柔軟に対応し、プロジェクト関係者との合意形成と高い品質の建築を実現できるよう、ICTを活用した「クライアント志向」のBIMを推進しています。単なるコンピューショナルデザインではなく、建築生産プロセスの変革につながるBIMから、新たな価値とサービスの創造をめざしています。

◆トランスコスモス株式会社について

トランスコスモスは1966年の創業以来、優れた「人」と最新の「技術力」を融合し、より価値の高いサービスを提供することで、お客様企業の競争力強化に努めて参りました。現在では、お客様企業のビジネスプロセスをコスト削減と売上拡大の両面から支援するサービスを、アジアを中心に世界33カ国・172の拠点で、オペレーショナル・エクセレンスを追求し、提供しています。また、世界規模でのEC市場の拡大にあわせ、お客様企業の優良な商品・サービスを世界49カ国の消費者にお届けするグローバルECワンストップサービスを提供しています。トランスコスモスは事業環境の変化に対応し、デジタル技術の活用でお客様企業の変革を支援する「Global Digital Transformation Partner」を目指しています。

◆応用技術株式会社について

応用技術は1984年の会社設立以来、ものづくり支援やBIM、GISを活用したソリューションサービス事業と、防災・環境分野を対象としたエンジニアリングサービス事業を両輪に、お客様の現場の課題解決に貢献できる企業となるべく、常に最先端の技術・製品・サービスを提供できる企業として技術スキルを高めながら成長しています。応用技術はトランスコスモスの子会社としてデジタル技術の活用による「Digital Transformation」を推進しています。